



よいことの
ために手を
取りあおう

国際ロータリー第2610地区

南砺ロータリークラブ

クラブ会報 **なんと**



NO. 2682

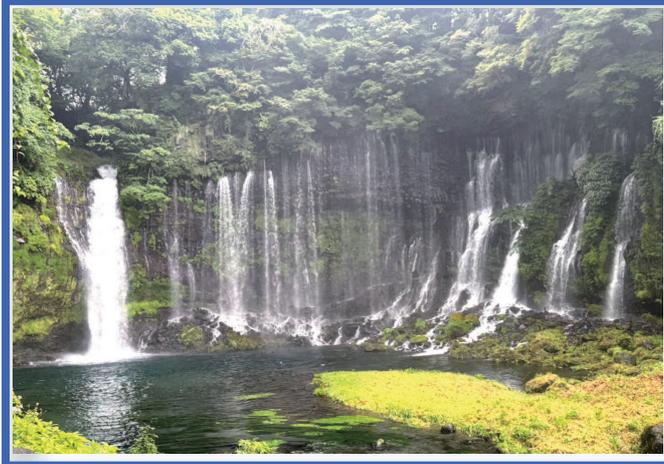
URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/福光会館2Fサークルルーム1 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ☎0763-53-1333 FAX 53-1334

静岡県富士宮市「白糸の滝」

尾山裕和会員撮影



第2743回例会 令和7年8月15日(金) 晴 24℃

《例会変更》早朝例会 城端別院善徳寺

- ◆ 点 鐘 6:15 石崎和三会長
- ◆ 司 会 石崎雄世副SAA
- ◆ ソング 「我等の生業」
- ◆ ゲスト 城端別院善徳寺 輪番 亀淵 卓師



◆ 会長の時間 石崎和三会長

ものすごく暑い今日この頃ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は調子悪くなると、新町の薬屋さんで相談しています。何の薬かわからないのですが、それを飲んでいますと一日、特にゴルフの時調子がいいです。スコアは全然よくないですが、体は非常に調子が良いです。専門家のいうことはちゃんと聞いた方がいいと思います。自分の体をいたわりながら、余生過ごしたいと思っています。

皆さんはどうか。今73歳ですが、記憶力がドンドン落ちて言葉が出てこない。でも毎日楽しい日々を過ごしています。

私は九州鹿児島島の出身です。台風がしょっちゅう来ていましたが、台風が来ると親に竹藪に連れて行かれました。風がビューっときても根っこにつかまっていれば安心でした。台風での被害はほとんどなかったですね。さつま川内市では何十年前に大きな被害があってその後防波堤を作ったりダムを改修するなどして、今は全く心配ありません。

この時期の過ごし方は大好きです。夏の暑さも大丈夫です。薬のお陰もあるようですが。今日はこの辺で。

◆ 幹事報告 野村 守幹事

8月16日にスカーレットさんが富山空港に來られます。久患龍三さんはじめ、10人ほどで、迎えに行きますが、「私も行きたい」という人があれば、申し出てください。

地区の会員大会の申し込みは8月29日までなので、早朝例会を除くと26日まで例会がないので、出欠の紙を回しますので、出席する、しないに丸を付けて戴ければと思います。

本日のプログラム 8月26日(火) 第2744回例会
卓 話
担当 石崎雄世会員

★ニコニコボックス 8/15 本田 敏委員長

石崎和君 さわやかないいお盆です。皆さんお元気そうで。今後ともよろしく。

木村君 お盆を迎えましたが、なんか今年の天気が…。暑すぎかと思えば大雨と、異常な状態に農家は四苦八苦です。

武田君 過日の祝賀会にご臨席賜りありがとうございました。今後とも努力精進し、がんばります。感謝申し上げます。

谷口君 盆前中は有難うございました。めっきり涼しくなりました。良い季節ですね。16日スカーレットさんを迎えます。17日は仙丈ヶ岳(3033m)へ登って来ます。

松村君 今年も早朝例会に参加できました。

尾山君 すがすがしい朝、お盆を迎え。

森悦君 今年も別院にて。輪番さんの法話を聞く事ができました。合掌

野村君 今年も城端別院、ありがとうございます。

古瀬君 今年も元気で善徳寺さん参り。合掌

牧 君 すがすがしい朝となりました。

山田清君 城端のお盆は、あんころと野球です。今日は一日スタジアムにいます。

神 君 亀淵輪番、卓話よろしくをお願いします。

鮫島君 みなさん朝早くからお疲れ様です。

本田君 あっという間にお盆です。みなさんよろしくをお願いします。

谷村賢君 おはようございます。今日はちょっと寝不足です。

井沢君 すがすがしいお盆の朝を迎えて。

荒井君 御仏を信じ給う。

船藤君 戦後80年、8月15日、城端別院、輪番法話、平和をありがとう。

岩木君 早朝例会に参加して。

久患君 里帰りの孫たち、昨日もう帰ってしまいました。

山田孝君 城端別院にて。



暁天講座

◆出席報告 吉田美花委員長

会員数	8月15日出席率	7月27日修正率
45 (免除1)	55.56% (出25)	71.11% (出32メーク2)

※欠席: 片山浩一君、谷口和尋君。

次回の予定 9月2日(火) 第2745回例会
ロータリー雑誌セミナー
担当 木村伊徳R情報・雑誌委員長

今日は親鸞聖人の生涯を通じて浄土真宗の教えを繙いて前回の例会に続けて（2回目）、お話をしていきたい。資料には「安城御影」と言われている、一番有名な親鸞聖人の御影が掲載してあるが、手に数珠を持っており、右手が上になっている。親鸞聖人の前にある草履は狸の皮で出来た草履で、前の箱はあんか、首には茶色のマフラーをしているので寒い時期だとわかる。また杖は鹿の骨で作られたもので、足元の赤いものは下着が赤いので、これらのことから親鸞聖人は多くの人から慕われて賞ったものを身に付けておられると言われている。多くの人と共にある事を表しているのがこの御影から察することができる。



「安城御影」

親鸞聖人の御生涯2

- ・承安3(1173)年4月1日(5月14日)－弘長2(1263)年11月28日(1月16日)
- ・幼名；松若丸・十八公曆・俗名(配流時)；藤井善信[よしざね]
- ・法名；〔叡山修行時〕範宴(少納言)
〔吉水入門後〕綽空⇒善信/親鸞 〔越後配流後〕(愚禿)釋親鸞
- ・生地；京都・法界寺付近 ・没地；京都・善法院(押小路南万里小路東)
- ・弟子；(親鸞に師事した人)善鸞、如信、河和田の唯円、性信、真仏、順信、明法(山伏弁円)等

六角夢告

建仁元年(1201年)の春、親鸞聖人29歳の時に叡山と決別すべく、まずは、後世の祈念の為に聖徳太子の建立の六角堂(京都市中京区)へ百日参籠を行う。そして95日目が明けた暁(同年4月5日)の夢中に、聖徳太子が示現され(救世菩薩の化身が現れ)、「行者宿報設女犯 我成玉女身被犯 一生之間能莊嚴 臨終引導生極楽」(あなたが、赤山神社の女性の問いかけに本当にこたえる道は、お念仏しかありません。道理に従って女性と一緒になるならば、私(救世菩薩)が生涯を共にし、真実を生きましょう) という偈句(「女犯偈」)を告げられ、この夢告に従い、夜明けとともに東山吉水にある法然上人の吉水草庵を訪ねる。(この時、法然上人は69歳。)そして岡崎の地(左京区岡崎天王町)に草庵を結び、百日にわたり法然上人の元へ通い聴聞する。

『恵信尼消息』では、「山を出でて、六角堂に百日こもらせ給いて、後世を祈らせ給いけるに、九十五日のあか月、聖徳太子の文をむすびて、(中略)又、百か日、降るにも照るにも、いかなる大事にも、参りてありしに」と記されている。



頂法寺六角堂

吉水入門

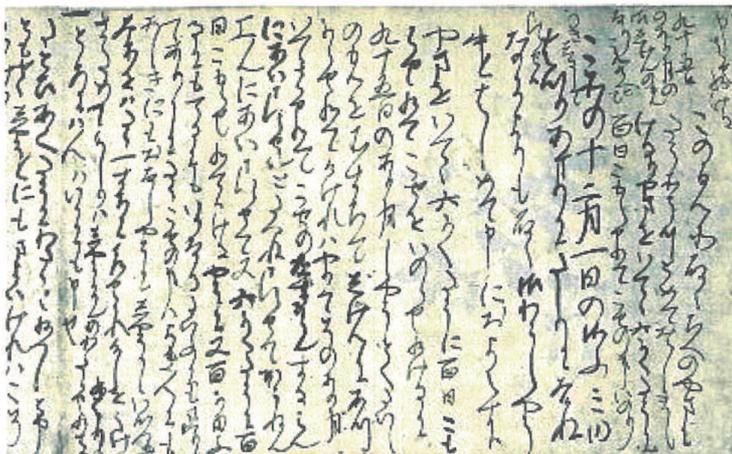
法然上人の専修念仏の教えに触れ入門を決意する。これを機に法然上人より「綽空」(しゃくくう)の名を与えられる。親鸞聖人は研鑽を積み、たちまちに頭角を現し、法然上人に高く評価されるようになる。

元久元年(1204年)11月7日、法然上人は「七箇条制誡」を記し、190人の門弟の連署も記される。その86番目に「僧綽空」の名を確認でき、その署名日は翌日の8日である。このことからこの時点では、吉水教団の190人の門弟のうち1人に過ぎないといえる。しかし、元久2年(1205年)4月14日、入門より5年後には『選択本願念仏集』(『選択集』)の書写と、法然上人の肖像画の制作を許される。法然上人は『選択集』の書写は、門弟の中でも弁長・隆寛などごく一部の者にしか許さなかった。よって元久2年4月14日頃までには、親鸞聖人は法然上人から嘱望される人物として認められたといえる。



元久2年(1205年)閏7月29日、『顕浄土真実教行証文類』の「化身土巻」に「夢の告に依って、綽空の字を改めて、同じき日、御筆をもって名の字を書かしたまい畢りぬ」とある。完成した法然上人の肖像画に改名した名を法然上人自身に記入してもらったことを記している。ただし、改名した名について親鸞聖人自身は言及していない。改名の名は近年は「親鸞」とされている。

恵信尼消息



今回の会報担当・牧千収

元久元年十一月七日 沙門源空

『七箇条制誡』
 一、教えをよくわかつていないのに、余の仏・菩薩を軽んずるな。
 一、好んで言い争いをするな。
 一、懸命に修行している人に対して、嫌い笑うな。
 一、専ら煙酒食肉を勧め、念仏者は悪を恐れる必要がない、と邪説を説くな。
 一、聖教を離れ、師説に背いて、ほしいままに私の主義主張を述べよるな。
 一、種々の邪法を説いて、無智の道俗を誤った方向に導くな。
 一、仏教ではない邪法を説いて、師範の説と偽るな。